さぁ、騒げ
終わることのない宴を
沸き立つ 髑髏(しゃれこうべ)
張り裂けそうな この滾りを携え

さぁ、笑え
兵(つわもの)が集いし夢に
幾度も 返り血を浴びようか
死に終わるまで

ほら 手の鳴るほうへ
誘(いざな)うは 鬼灯(ほおずき)
荒ぶる本能で この無聊(ぶりょう)な
静寂(しじま)を 切り裂いて

阿修羅のまにまに 果たし合い
巡り廻る先 ついぞ咲かぬ
麗しき大輪(たいりん)を 染め上げ

心のゆくまま 踊るまま
繰り返す夜に 鬼が笑う
狂おしく さんざめいて
永遠(とわ)に 咲き誇れ

さぁ、渡れ
六文銭を 握りしめて
飽くまで 斬り伏せ続けようか
身が尽きるまで

ほら 手合わせ拝め
揺らめく 彼岸花
昂る衝動で この無情な
浮世を 駆け抜いて

神楽のまやかし 神懸かり
燃ゆる戦場(いくさば)に 積もり積もる

堆(うずたか)い残骸を 蹴散らし

鼓動の鳴るまま 歌うまま
轟く叫びに 笑み溢(こぼ)れる
祝杯を 飲み干して
無限に 返り咲け

惨禍を揺蕩う 花びらよ
宴の終わりが 迫るにつれ
口惜しく散りぬるを それでも

心のゆくまま 踊るまま
繰り返す夜に 鬼が笑う
狂おしく さんざめいて
永遠(とわ)に 咲き誇れ

あぁ 花のように美しく
永遠(とわ)に 舞い上がれ